

## 1 教育理念

- (1) 将来の国家及び社会の形成者として高い学力と教養を身に付け、責任と義務を自覚し、新しい価値を創造して広く社会に貢献できるたくましい人物を育成する。
- (2) 日本の文化と伝統を継承し慈しむ態度及び豊かに生きるための情操を育む。
- (3) 校訓「立志 邁進 才知 共生」を実践する教育を行う。

## 2 目指す学校像

生徒一人ひとりの持つ個性や能力の伸長を図り、高い志を持って21世紀を切り拓く人物を育てる。そのために、教職員が協働して生徒に感動と自己の変化を実感できる教育実践を通し「地域を支え、地域に支えられる」学校作りを展開する。

- (1) 文武両道に励み礼節と勤労を尊ぶ校風を継承・発展させる。
- (2) 社会の一翼を担う覚悟と自己実現のための努力を惜しまない人間を育成する。
- (3) 国際的な視野に立ち、地域の文化・伝統を愛し、地域社会に貢献できる人間を育成する。
- (4) 地域と小・中学校からの信頼と期待に応え、地域に開かれた学校作りを推進する。
- (5) 教職員の研修を充実させ、指導力のある教職員集団をもって組織的に生徒の育成に当たる。

## 3 本年度の重点目標と具体的な取組

### (1) 授業の充実と学力向上

ア 「分かる授業」（生徒2年意識調査目標：国語 91% 数学 62% 英語 70%、学校評価目標：90%以上）・「考えさせる授業」を展開し、基礎・基本的な知識や技能を習得させる。

（2年基礎力確認調査平均正答率目標、数学 55% 英語 55%）。昨年度まで携わった「遠隔授業」「アクティブ・ラーニングからの視点による授業」研究で培ったスキルを活かし、さらなる教育の質保障を目指す。

イ 目標に準拠した評価、観点別学習状況の評価の適切な運用徹底を図る。

ウ 朝読書や各教科の図書指導の充実を図り、思考力・表現力と情報処理能力の育成に努める。

エ 全生徒が実用英語検定試験3級以上に合格できる学習プログラムを展開する。（卒業時実用英語検定試験3級以上目標：83%）

オ 授業内容の理解を促進する家庭学習の課題を計画的に出し、家庭学習の充実を図る。（2年平日家庭学習時間目標：1時間未満…35%以下、2時間以上…21%以上）

### (2) 生徒指導の充実、部活動の活性化及び健康な体を育む教育の推進

ア 学校生活のあらゆる場面を通じて基本的な生活習慣を確立させ、健やかな心身を育成する。

イ コミュニケーション能力の基盤となる「挨拶、時間、環境整備」の日常実践を促す。

ウ 地域活性化に貢献する生徒会行事の運営と委員会活動やボランティア活動を推進する。地域課題探求学修「KIZUKIプロジェクト」事業の本格的実施と深化に努める。

- エ 海外派遣事業等を通して、多角的に考察し行動する能力を伸張させる。
- オ 「部活動の日」「部活動週間」を設定し、部活動の活発化を促進する。
- カ 指導者のコーチング技術の向上を図り、学習者の力を引き出し自己決定力、自己効力感を会得させ、問題解決能力及び健康で精神的な強さを持った生徒を育成する。

(3) 進路実現のための指導の充実とキャリア教育の推進

- ア 生徒理解に努めるとともに諸活動体験を進路選択に連動させ、組織的、計画的かつきめ細かな進路指導により進路志望実現を図る。(目標：国公立大希望者進学達成率 60%を含め進学達成率 100%・就職達成率 100%)
- イ 生徒の進路希望に即した各種課外・面接指導・小論文指導を組織的に推進する。
- ウ 進路情報や進路講演会を活用し、生徒・保護者に職場や上級学校への意識改革を図る。
- エ 就職先と進学先の追跡調査等を実施し、現役生徒の指導に役立てる。
- オ 「総合生活力」「人生設計力」の育成を図るキャリア教育を充実させる。

(4) 復興教育、人権教育、主権者教育、豊かな心を育む教育の推進及び地域振興への取り組み

- ア 「いわての復興教育」に取り組み、震災復興・地域振興に寄与する人財を育む。地域企業と連携したインターンシップを実施し、地元産業から復興を考察させる。自然災害に「備える」教育、避難訓練等を充実させ、防災意識の涵養と防災・安全教育を推進する。
- イ 生徒理解・触れ合いに努める。HR を計画的に実施するとともに、毎日の SHR を十分に活用して心身の悩みに適切に対処する。
- ウ 生命に対する畏敬、他者との共生、人権尊重の態度の育成などの人権教育、ネット、スマートフォンの利用指導、犯罪の未然防止などの情報モラル教育を推進する。
- エ 主権者教育を計画的・継続的に実施するための具体的な方策を検討する。
- オ 朝読書での道徳教材の活用など道徳教育を充実させ、豊かな心を育む。(自分にはよいところがあると思っている生徒の割合目標値 71%)
- カ 郷土芸能活動や「三陸ジオパーク」推進活動等を通じ、地域理解を深化させる。
- キ 学校評価等の情報発信を図り、地域に理解され支援される学校作りを行う。
- ク 地域の小中高大連携を模索する。「小学生理科実験教室」「中高授業交流会」等の小中高連携事業や「小・中・高部活動交流会」等を推進する。

(5) 教職員の教育力の向上及び信頼される学校作りの推進

- ア 教材研究の徹底と AL 型授業の研究など OJT による組織的な授業力向上を主眼とし、日常的な全教科全教員の互見授業のほか年間計画に基づいた授業公開・授業研究に取り組む。
- イ 自己評価・学校関係者評価・授業アンケートを行い、学校運営・組織力の改善を図る。
- ウ 教職員の教育力向上を図るため AL 先進校視察・研修等への派遣を継続実施する。
- エ 時間、物品など授業・部活動に集中できる環境を整備して、校務の効率化に努める。
- オ 教育に対する町民・県民の信頼を確保するためコンプライアンスを推進し、適切堅実な業務環境の構築と不祥事の撲滅を期する。